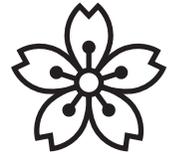




御即位記念植樹梓(キササゲ)



建国記念日祭挨拶

御祭神数

当神社に御鎮祭申し上げております
御祭神は四万九千七百二十八柱です。

宮司 額田 照彦

本日の、建国記念日祭に際しましては、御遺族・崇敬者・友好団体の皆様方のご参列を賜り、また日頃より、英霊の「慰霊顕彰」神社の「護持運営」に、格別のご支援ご協力を賜りまして、有難く厚く御礼申し上げます。

本年、皇紀二千六百八十年を目出度く迎え、只今ご神前に、悠久の歴史を誇る、御皇室の弥栄と、国家の繁栄、世界平和をご祈念申し上げます。

さて、本年は令和の御代となり、初めての「建国記念の日」を迎えました。昨年は、御大礼が行われ、諸儀式が国の重儀として、厳肅裡に行われましたことは、我々国民にとりまして、大変喜ばしく、まさに記念すべき年であったように思われます。

皆様ご承知の様に、特に「即位礼正殿の儀」におきましては、直前まで降っていた雨がやみ、虹が出たと伺っております。

明治天皇様の『天てらす 神の御光ありてこそ わが日の本はくもらざりけれ』との御製にもある通り、我が国は、天照大御神の御光のもと、八百万の神々の御神威をいただき、栄えて参りましたが、皇孫たる新たな天陛下下の「即位礼」に併せるように、神々の壽ぎの御光を、お見せいただけたようにも感じます。「昭和」は戦争の時代、「平成」は自然災害の時代とよく言われますが、「令和」は戦争も自然災害もない、平和な時代になって欲しいと、全ての国民が願っている事と思えます。

令和の御代が、益々に明るく希望に満ちたものとなりますよう、我々国民がひとつになり、「和」という、日本民族の健全な精神性を、維持できるように、日々努力を惜しまず、歩んで参りたく存じます。

また本年は、東京オリンピック・パラリン

ピックが開催される予定となっております。世界の国や地域から多くの外国人が訪れます。

世界に誇れる、日本の美しい「伝統文化」を理解してもらえ、絶好の機会であると思います。日本の国を理解してもらおう事が、後々の日本の国益につながる事と思います。

「即位礼正殿の儀」の、陛下のお言葉に「国民の叡智とたゆみない努力によって、我が国が一層の発展を遂げ、国際社会の友好と平和、人類の福祉と繁栄に寄与することを切に希望いたします」と仰せになりました。

「建国記念の日」にあたり、この陛下のおこたを心に刻み、我が国の悠久の、「歴史と伝統文化」を、後世に受け継いでいかなければならないと思います。

本日、ご参列賜りました皆様方には、今後とも英霊の「慰霊顕彰」神社の「護持運営」にご理解ご協力を賜りますようお願い申し上げますと共に、皆様方のご健勝と、益々の御隆昌を、衷心よりお祈り申し上げご挨拶とさせていただきます。

武漢の桜を偲ぶ・慰霊巡拝

愛媛縣護國神社崇敬会

会長 愛原 章

平成九年の三月、中国慰霊友好親善訪問団として、遺族十八名、日本遺族会の引率者二名がパスポートを手に十一日に成田空港へ向

かいました。中国へ旅行するのは初めてで、楽しみと不安が半々でした。

午後の便でしたが、二時間余りで上海空港に着き、通関後に流暢な日本語で迎えてくれたのは女性ガイド程(公安)さんで、中国には四千年の歴史があると何度も聞かされました。

迎いのバスでは、上海を案内してくれる別の女性ガイド(公安)と一緒に市内を見学しながらホテルへ向かいました。夕食は上海市内を見て外食です。真っ暗な店の前に車が止まると、急に店に電気がついて明るくなり(節電だそうです)、ここで焼き肉を食べる事になりました。棚に並んでいる好きな肉を食べたらということでしたが、細切れになっている肉の名前の中に、牛肉らしきものはありません。

そしてもらった長い箸が真っ黒でしたから、使い回しをしているのは確実です。せめて割り箸でもと思い、食べる気もなかった初日でした。だがその後、箸だけは竹の割り箸が出るようになって助かりました。別の食堂で肉の値段表を見ると、一番高いのが蛇の肉だったことを覚えています。

また、日本の歌を流し歓迎されて入った店で、昼食に出た名前も分からない魚(淡水魚)は、店を出て一つ通りを変えて歩いてみると、道路に直に並べて売られていました。列車で移動した時に、昼飯を列車の食堂で食べる事になり、ガイドが薦める麻婆豆腐

を注文したら、出てきた料理は冷たくて喉を通りません。その食堂車を出る時に通路の隅の方にあった、日本なら掃除道具を入れるような所を開けてみると、よく食べていたチンゲン菜が、泥がついたまま無造作に放り込んでありました。全く驚きの連続です。

朝食だけはホテルなので、美味い中華饅頭を選んでしっかり食べ、昼と夜はそこそこで済ますようにした一週間でした。

ただ、衛生状態の悪いトイレにはうんざりでした。飛行場やホテルはまずまずですが、公衆便所、何故か我が家で使っている絨毯と、同じ柄の絨毯を作っていた工場や列車のトイレについては、書くのは止めますが、戦時中に経験した農家の下便所よりも、酷い状態でした。

上海市で一泊して長沙市へ、一泊して空路で(私の目的地)武漢市へ。今は新型肺炎の発生地として、汚名を着せられています。当時の状況から考えると、私が驚いたように中国は衛生面で課題があるのは確かです。武漢に中国科学院の病毒科学研究所があるのも事実で、やむを得ませんが、新型コロナウイルス流行は、早く終息してほしいと願う次第です。

さて、当時の父が亡くなった武漢大学は、旧陸軍の武昌陸軍病院としての役割を果たした場所で、武漢市の武昌区にあり、丁度花見の時期で多くの人が集まっていました。予定にはなかったのですが、バスの運転手

さんが私を氣遣って車を止めてくれたので、高い城壁のような所へ、狭い階段を上がって登ってみました。下では戦中・戦後に日本人が植えた桜（戦時中に植えた桜が枯れて、私が見た桜は、後に田中角栄氏が植えた桜でした）が満開で、花見客が大勢集まり撮影会などが開かれていました。でも今年は花見どころではないでしょうね。

陸軍病院跡だったら、付近に旧日本兵の墓碑等があってもいいと考えたのですが、桜だけが見事に咲き誇っている、よく整備された広い公園になっていました。

武漢大学は淡水の真珠が取れる美しい東湖



の近くで、長江、沙湖、南湖に囲まれたこの地の美しい風景は、病んだ父達も見たのではないかと思い、偶然見る機会を得た武漢の桜ですが、この時期になると異国の地で果てた英霊も、今は墓碑となった桜を見に、集まっておられるのではないかと考え直し、いい時期に来たことを嬉しく思いました。

これが湖北省武漢市を訪ねた私の感想ですが、桜が咲く頃になると、少し早い武漢の桜を思い出すことがあります。

武昌で二泊して列車で鄭州市へ、初めてホバークラフトに乗って、対岸が見えないような広い黄河の中州までを往復したりして二泊し、空路で上海へ戻りましたが、その間に各地の博物館等々を見学して、宿泊した四力所のホテルでは、その地域で亡くなった方の遺族が中心になって慰霊祭を行い、十八日には、ずっと付き添ってくれた程さんと空港で別れ、午後一時過ぎに全員無事に帰国しました。

その後は、一緒に旅した仲間と「思い出の会」を立ち上げ、毎年何処かへ集まって旧交を温めてきましたが、八十を超えるとそれも難しくなっており、一昨年の十月に松山へ十人余りが集まり、最後の会を開催して解散しました。

二十三年も昔のことになりましたが、この慰霊巡拝に愛媛県から参加したのは、西条の杉野さん、宇和島の家田さん、そして私の三人でした。

令和元年度

第六十六回 新穀献納慰霊祭

令和元年度（第六十六回）新穀献納慰霊祭は一月十一日（土）午前十一時より、県護国神社で厳かに執り行われた。

県郷友会永井会長が祭主となり斎行された。当日は穏やかな冬晴れの中、ご来賓を始め県下から単体会長、役員等六十数名が参列した。

県下会員、県民のご協力により拠出されたお初穂料・新穀を奉納し、英霊を御慰めした。今年度は前年度を上回る集荷を達成することができ、御協力戴いた県民の皆様及び献納に御尽力戴いた会員に感謝申し上げます。

祭文

本日、愛媛縣護國神社の大前において、ご来賓及び郷友会会員多数ご参列のもと第六十六回新穀献納慰霊祭が、厳かに執り行われるにあたり郷友会を代表して謹んで祭文を奏上いたします。

この献穀運動は、幾多の事変、特に大東亜戦争において、戦禍に倒れ、あるいは、遠い異郷の地に亡くなられた郷土の英霊の皆様方に収穫された新米を献じることを企画し、日本郷友連盟の発足する三年前の昭和二十八年に始まりました。

今日の豊かな生活を享受できるのは尊い英霊の犠牲の上であり、感謝の誠を捧げる慰霊

顕彰の伝統行事として会員の皆様の協力を得ながら続けて参りましたが、今では定着されております。

今後永久不滅の愛のある愛媛県の誇れる伝統行事として継続実施する決意を新にしております。

しかし戦後七十四年も過ぎ、会員の高齢化による活動の衰退、減少が著しく、戦争を知らない世代である七十才以下の国民が八割以上を占めている今日、日本の将来を懸念しておりますが、軍歴がなくとも誰でもが入会できる郷友会であり日本郷友連盟の理念でもあります。

自分の国は自分で守るといふ国防意識の高揚、英霊・殉職自衛官の慰霊顕彰、栄光ある歴史及び伝統文化を継承するという、日本郷友連盟の理念でもある、三点の具現実行を通じて組織の強い活性化の維持に努めながら、先輩としてこの事業を語り継ぎ、継承・存続しなければならぬと痛感致しております。今後におきましても私どもは御祭神四万九千七百二十八柱の方々のご加護を戴きながらこの事業を続け、百四十万県民のやさしさとパワーを結集し豊かで住みやすい郷土造りに専念努力する所存であります。

また自衛隊に関しては、最近の近隣諸国の動静は予断許しがたき不穏な行動が多く憂慮される中、益々のご奮闘を期待すると共に、その活動に対し限りなく最大限の支援を続けて参ります。

終わりにりましたが、在天の英霊どうか、御遺族の皆様をはじめ県民全てにご加護を賜り、安らかにお鎮まり下さいますよう祈念し祭文と致します。

令和二年一月十一日

愛媛県郷友会

会長 永井之保

『戦友団体等による慰霊祭』

令和元年

十月十三日 愛媛県隊友会

十一月二日 愛媛偕行石鉄会
戦没者戦争裁判殉国者

『遺族会等による慰霊祭』

令和元年

十月十八日 愛南町城辺

十月二十三日 愛南町御荘 (合同)
愛南町西海

十月二十四日 西予市野村町貝吹

〔奉納者並びに寄贈図書〕

一、「霧島神宮誌」

鹿児島県霧島市霧島田口

霧島神宮様

一、「悠久なる大宮八幡の杜(乙)」

—平成から令和の幕開けへ—

東京都杉並区大宮

大宮八幡宮様

一、「鋼鉄の法」

—人生をしなやかに、力強く生きる—

著者 大川隆法

松山市枝松

中谷 真二様

令和元年(十月)

秋季慰霊大祭奉仕者

(敬称略)

愛媛県遺族会代表献供奉仕者

女性部 北宇和郡鬼北町

堤 忠子

遺児 北宇和郡鬼北町

松崎 和男

献茶菓奉仕者(茶道裏千家淡交会松山支部)

松本宗正社中 松山市猿川

渡部 宗重

西崎宗里社中 松山市保免西

石元 若葉

献花奉仕者(愛媛県華道会)

聴春 流 松山市二番町

田上千春

聴春 流 松山市二番町

浦谷 香子

敬神婦人会代表献供奉仕者（愛媛縣護國神社敬神婦人会）

伊方町遺族会 西宇和郡伊方町 是澤 多枝子

伊方町遺族会 西宇和郡伊方町 兵頭 京子

幣殿献花奉仕者（華道家元池坊松山支部）

松山市岩崎町 池田 泰治

松山市道後緑台 宮岡 美智子

献吟奉仕者（愛媛県吟詠詩舞総連盟）

九日（霊璽奉安祭）

愛媛県吟詠詩舞総連盟 伊賀上 峰山

愛媛県吟詠詩舞総連盟 泉 溪晴

愛媛県吟詠詩舞総連盟 湊 江征

尺八献奏者

愛媛県吟詠詩舞総連盟 田村 江道

十日（慰霊大祭）

愛媛県吟詠詩舞総連盟 日浦 芳陽

愛媛県吟詠詩舞総連盟 安井 紫梅

愛媛県吟詠詩舞総連盟 中井 静玲

尺八献奏者

愛媛県吟詠詩舞総連盟 長谷川 廣山

献謡奉仕者（愛媛縣護國神社献謡会）

九日（霊璽奉安祭）

「忠霊」 村井安夫会長以下有志一同

万葉苑だより

「右近の橘」あれこれ

愛媛万葉苑保存会

常任理事 藤原 茂

護國神社本殿の正面に向かって右側に愛媛県近衛会の記念樹にニホンタチバナが植えられており、万葉苑の入口にも向かって左側に同じように植えられている。愛媛県近衛会と



は、旧陸軍の皇居の守衛と儀仗に当たった、日本陸軍最精鋭部隊のOB会である。

そもそも平安京の紫宸殿の前には、護衛のため左右に近衛府があり、その右近衛府の側に橘、左近衛府の側に桜が植えられていた。

これを「右近の橘・左近の桜」と呼び、その古事に倣って現在の京都御所紫宸殿の前にも同じように植えられている。近衛会はその由来に因んでの記念植樹である。

ところでこのニホンタチバナは、昭和天皇とご縁の深かった旧藩主で、当時の愛媛県知事久松定武氏が、宮中から特別に頂いてきた穂木を果樹試験場で接木したものである。勿論万葉苑のタチバナも同じである。ただ植える場所は内側から見て右が橘、左が桜だから万葉苑の方が正しいことになる。

タチバナはミカン科木本類。日本に古くから野生した柑橘でヤマトタチバナともいう。葉は互生して小型。卵状皮針形或いは長卵形。葉柄には小さな翼がある。花は六月ころ香りの高い白い花をつける。果実は偏球形で直径二・五cm内外。冬黄色く塾すが酸は強い。県内では南予の鹿島に自生していて、八木繁一先生は自宅で栽培されていた。しかし、牧野富太郎氏は「元来タチバナは食用ミカンの古代名で、多分その種は紀州ミカンの様なものである」と推定している。

そのタチバナは「日本書紀・古事記」によ

ると、第十一代垂仁天皇から不老長寿の実を採って来いと命を受けた田道間守(たじまもり)が、十年の歳月をかけて常世の国から持ち帰った「非時香果(トキジクノカグノミ)」ということである。田道間守は大変な苦勞をして持ち帰ったが、天皇はすでに崩御されていた。田道間守は天皇陵のある菅原伏見東陵(現奈良市尼辻町)に詣で「私は天皇の命を受け、常世の国に渡って神仙の住む国から漸く《不老長寿の実》を持ち帰ったが、今と



なつては何の役にも立たない」と御陵の前で叫(おら)び泣き死んだという。後の人々は御陵の側に田道間守の塚を築きお祀りしている。その後橘は「常世物」として永遠の繁栄をもたらしものと珍重されてきた。

田道間守の先祖は元新羅国王の子であったが、日本に渡来し但馬の国「現兵庫県」に代々住みついていた。その五代目が田道間守であった。今も兵庫県豊岡市(旧但馬の国)には中島神社があり菓祖として祀られている。

中島神社の社名の由来は、田道間守の塚が天皇陵の濠の中にあつて中の島に見えるからだと伝えられている。その分社が道後湯神社の境内に菓祖中島神社として祀られている。

余談ながら私の郷里で豊岡市の隣の京丹後市には田道間守がタチバナを持ち帰ったと伝わる浜がある。「松葉かにと温泉と夕日」で有名な「夕日が浦」別に「常世の浜」と呼ばれている。またその地は同じ訓読みの「木津川橋」と呼び、橘中学校がある。私はその校長に頼まれ橘の苗木を贈ったことがある。

愛媛みかんの発祥の地と伝えられる宇和島市立間の大乗寺にも、田道間守がお祀りされており、「たちま」と「たじま」の類似点から、田道間守が帰国した地ではないか、とする説もあつて奇縁に驚いたことがある。

また「続日本紀」には聖武天皇が橘は菓子の上上で人の好む所である。霜や雪寒暑の中

でも生い茂り」と称賛され、古代の人々も同じような認識で、この実を「霊菓・仙菓」と表現しており、これが「菓祖田道間守」の所以となっている。万葉集には橘を詠んだ六九首の歌があり、萩・梅に次いで多い。

橘は実さへ花さへその葉さへ
枝に霜降れどいや常葉の木

聖武天皇(巻六)一〇〇九

この歌は、葛城王(橘諸兄)が臣籍に降つて橘の姓を賜ったとき聖武天皇が詠まれた歌である。それ以来源氏・平家・藤原・橘が日本の代表的な姓と呼ばれるようになり「源平藤橘」という言葉が残っている。

集中橘の歌六十九首の内実に六十二首までが花橘として詠まれている。

わが背子がやどの橘花を良み

鳴くほととぎす見にそ我が来し

奄君諸立(巻八)一四八三

などがある。五月頃緑の葉の中に薫り高く咲く白い花は、古代人の愛した純潔の象徴として受け取られのであろう。また冬になって濃い緑の葉の中に輝くような大粒で美味な実をつけることに、万葉人の心を引き寄せたことであろう。

因みに愛媛県花はこの「みかんの花」であり、県旗にもこの花が描かれている。当時の久松知事の人柄に相応しい、と大変好評だったことを覚えている。

正式参拜

☆令和元年十月三日

松山市遺族会清掃奉仕
会長 乗松 悟様
計四十名

☆令和元年十二月八日

松山市遺族会役員会
会長 乗松 悟様
計四十名

☆令和二年一月一日

松山市遺族会役員会
会長 乗松 悟様
計四十名

☆令和二年一月一日

愛媛県隊友会
会長 瀬川 紘一郎様
計三十名

☆令和二年一月六日

四季オーナーズ会
会長 林 龍峯様
計六名

☆令和元年十月二十一日

秋山兄弟生誕地研究員一同
代表 山崎 薫様
計十二名

☆令和二年一月一日

歳旦尺八献奏
都山流尺八中予幹部会
会長 西田 仙秋山様
計十名

☆令和二年一月二日

新春慶祝揮毫
書家 林 龍峯様
計三名

☆令和二年一月二十二日

養護老人ホーム江南荘友の会
会長 片山 明子様
計三十名

☆令和元年十一月八日

愛媛県遺族会理事会
会長 関谷 勝嗣様
計二十名

☆令和元年十一月二十八日

昭和三十九年度遊子川中学校
卒業生古希記念
代表 三瀬 逸雄様
計十九名

☆令和二年二月二十八日

松山市遺族会役員会
会長 乗松 悟様
計四十名

☆令和元年十一月二十八日

久万高原町遺族会
会長 坂口 鶴男様
計二十六名



愛媛縣護國神社英靈顕彰会 入会と継続のご案内

平成26年11月の設立以来、ご理解ご協力を賜り感謝申し上げます。
今後も英靈のご遺徳を顕彰し後世に伝えてゆくために、愛媛縣護國
神社英靈顕彰会へのご入会と継続のご協力をお願い申し上げます。
お問い合わせは、下記迄お願い致します。

愛媛縣護國神社 英靈顕彰会事務局 TEL (089) 925-2353

英靈顕彰会会員の特典

各特典	正会員	賛助会員	特別会員	備考
会費(年額)	3,000円以上	10,000円以上	100,000円以上	
会員対象	個人	個人・団体	個人・団体	
神札	御守	紙札	木札(小)	年1回発送
社報	年2回発送	年2回発送	年2回発送	
春秋大祭案内	×	×	○	一般来賓案内
顕彰石彫	×	×	○	

御祈禱(お祓い)の
御案内

当社では各種祈願を随時お
受けしております。
時間等は社務所へお問い合
わせ下さい。

初 七 厄 交 家 合 社 新
宮 五 除 通 内 格 運 年
三 三 け 全 全 祈 隆 特
詣 詣 け 全 全 願 昌 別
詣 詣 け 全 全 願 昌 祈
詣 詣 け 全 全 願 昌 祈
詣 詣 け 全 全 願 昌 祈